

日本伐木 チャンピオンシップに出場して

第1回みえチェーンソー技術競技大会の優勝に伴い、三重県代表として、当組合の片岡淳也、福山成宣、西山真の3名が、平成28年5月21日・22日に青森県青森市のモヤヒルズで開催された第2回日本伐木チャンピオンシップ(JLC)に出場しました。



西山・片岡・福山

今大会は、林業技術及び安全意識の向上、林業の社会的地位向上、新規林業就業者数の拡大等を目的として開催され、全国(北海道～熊本)から31名の出場者が集い、熱戦が繰り広げられました。天候にも恵まれて2日間で、1,500人の観客を記録しました。

競技内容は、伐倒・ソーチェーン着脱・丸太台せ輪切り・拵地丸太輪切り・枝払いの5種目で、技術面と安全面のポイントの総合点で順位が争われました。

当組合の3選手は健闘むなしく、上位入賞とはなりませんでしたが、選手にとっては、結果だけではない大きな成果がありました。彼らはJLC出場で、普段にない高揚感を味わうことができ、チェーンソー技術向上への意欲が高まったように感じられます。JLC出場後は、仕事への取り組みにも、更なる意欲と配慮が見られるようになりまし。本当にJLCに参加させて頂いて良かったと思います。

林産流通課長 柳田圭一

林業の労働安全に思う

安全・指導対策室長
寒川卓美

はじめに

当組合は、地域の森林、林業の担い手としての役割を果たしていく為に若者を雇用しながら組織体制の充実を図ってまいりました。

又、組織目標を「ゼロ災害」に置き、安全意識・安全技術の向上と安全装備の充実に努めてきたところです。

重大災害

今年6月、雑木伐倒の作業中に重大災害が起きてしまいました。

組合の発足以来、初めての出来事であり、大変重く受け止めております。

再発防止

林業は、自然条件の影響を受け、傾斜地での作業が多い大変危険な仕事です。

「安全は、存在しない」そのものです。

この度の災害要因をしっかりと検証し、今後はリスクアセスメントの徹底により再発防止に取り組んでいきます。

(リスクアセスメント～危険の事前評価)

現場での危険箇所を事前に洗い出し、その予防策を講じるという未然防止への取り組み。

思い

大変危険な仕事であるにも拘らず、大切な森林づくりを進めていかなければならないのは、「森林組合の宿命」でもあります。

現場で汗をかく現業職員は、仲間を亡くした辛さや、恐怖心と闘いながらも、地域の森林を守り、未来へ繋いでいくという使命感を胸に日々仕事に励んでいます。

この度の重大災害を決して無駄にしない為に、更なる安全意識を高め、危険を見抜く力を磨き、ゼロ災害に向けて挑戦し続けていきたいと思っております。

訃報のお知らせ

林産流通課 小山正洋氏(41才)が6月に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

役員が改選 になりました

任期 平成28年～30年(3年任期)



	紀勢地区	大宮地区	大内山地区
理事	山添裕康 (組合長) 谷口道治 出口眞一郎 (新任) 大西正仁 (新任)	梅田利幸 (副組合長) 水野訓行 生駒 喬 河合浩平	大内 結 (副組合長) 出馬喜勝 井上文雄 喜畑康之 (新任)
監事	大喜多真也 (代表監事)	村田幸司	大内錦司

総代をお願いしました

平成28年～30年(3ケ年) 敬称略

大喜多正行 野田幸嗣 岡田一彦 岡島秀樹 玉井隆文 中村眞也 染川 久 鳥田眞吾 中村熊郎	井熊秀幸 中村 忠 大西克孝 山口 智 中村昌司 西村敏博 大瀬寛道 北村幸成 西村眞一	堀江 孝 堀江保代 瀬古文博 瀬古伸一 瀬古勇雄 辻原浩哉 筒井 英 中川俊也 西岡正浩	玉井 聡 福山和美 筒井 啓 小倉一久 平井志郎 定彰一郎 小倉和志 小倉満彦 小野治郎	船瀬恒夫 神田昌彦 神田昌俊 上村 勇 北 正宗 上村公正 中井信治 奥山勝巳 阪井一文	出口眞市 西 央隼 柏木繁行 西村嘉行 紙谷 恵 西 美之 村田敏郎 奥村一夫 村田 剛	出口公啓 村田幸三 生駒和登 村田 仁 小野泰延 大内久吉 中西 誠 村田政行 村田凱巳	村田清生 小野要吉 西田富郎 織田和治 山本幸次 阪本好信 須藤 勉 (70名)
---	--	--	--	--	--	--	---

山添茂樹 山添勇志 山添正三郎 服部国彦 山添太平 山添英機 藤原貞司 藤原 彰 藤原善一 小倉一一	小山敬三 中垣内和行 水谷烈敏 水谷芳宏 清原周三 小倉史朗 吉田 驍 大喜多孝 小倉直喜 小倉利彦	出口千明 小倉智和 山添悟志 小倉桂吾 出口政門 小倉敏生 岡田 博 林本昭人 松本直樹 出口逸郎	山本善道 間井仙次 間井直行 杉本義美 杉本 勇 伊東富士男 富島義幸 西山忠幸 中尾 修 小倉安生	小倉 勲 小倉光善 小倉康昭 小倉一生 小倉正直 西山範幸 小林克則 山畑正弘 森田敏哉 中村雅行	守田謙二 吉田和昭 喜多保友 吉田克己 北隆太郎 出口敬一 西村直樹 西村良雄 大野泰寛 森本軍治	大野和久 小倉 恵 喜多吉人 大野昭和 大野勝己 糸川広寿 西村太三郎 越飯初男 細野 明 谷口高明	西村 昇 藤原徳久 藤崎典史 糸川有司 西村満季 阪口佐幸 吉田功八 西村重郷 石倉正保 (80名)
---	---	--	---	--	--	---	---

米倉隆男 村田 惇 喜畑大洋 園部美智矩 中桐周平 中桐邦男 木曾原正	服部眞吾 中森孝行 前野昌茂 中桐伸一 喜畑龍生 中桐 力 江尻忠雄	村田 正 中村直幸 伊藤源作 大西満穂 小阪東洋男 大西一弘	伊藤保男 大西直人 福山嘉行 中桐博司 藤原長平 中桐和成	大西定夫 久保幸一 久保龍夫 小倉和俊 水谷真理 小倉満夫	井上芳夫 田中繁樹 田中 元 米倉 章 乾 昭二 出馬廣一	出馬城士 前田栄司 米倉拓美 服部善哉 米倉武文 村田 長	米倉照男 米倉卓朗 服部義明 奥出 董 小阪廣政 奥出義勝 (50名)
---	--	---	--	--	--	--	---

第33号

大紀森林組合だより

平成28年9月 発行



表紙 中谷よう子さん

原点回帰～新たな挑戦のほじり

もくじ

- 合併 25 周年の推移と目指す森林づくり
- コンテナ苗・造林補助事業
- チャンピオンシップ・労働安全
- 役員・総代改選

三重県度会郡大紀町崎 239-2

TEL. 0598-74-0224

FAX. 0598-74-0379

業務 E-Mail taikisin @ma.mctv.ne.jp

総務 E-Mail taikisom @ma.mctv.ne.jp

合併 25 周年の推移 と 目指す地域の森林づくり

代表理事組合長 山添裕康



はじめに

平成3年4月に大紀森林組合が合併設立してから、早、25周年が経過しました。これまで組合員の皆様方をはじめ、行政当局、並びに関係機関各位等、多くの方々のご支援により組合活動を継続してこれましたことに対し、改めて深く感謝申し上げます。

林業の流れ

大紀地域のスギ、ヒノキの人工林が成長し、これまでの木を育てる「保育型」から、木を伐って利用する「林産型」へと林業の流れが大きく変わってきました。

一方、需要面に於いても、住宅様式が和風から洋風へと変化し、又、合板材や木質バイオマス発電の原料等、求められる木材が優良材から並材へと、これも大きく変化してまいりました。

当組合では、そうした流れに対応する為、素材生産から流通販売への取組みに力を注いできたところです。

組合員の皆様から立木を購入し、伐り出した立木を少しでも有利に販売したいとの思いから、原木市場をはじめ多くの協定先へ販売をしております。

これからも更に素材生産量を増やしながら、販路の充実を図っていきたくと考えております。

転換期

現在、当地域の人工林面積13,800haの内、10齢級(46年生)以上は、10,800haで78%を占めており、まさに「高齢化」です。

今後は、徐々に「若返り」を図っていく為にも、主伐から再造林(低コスト造林)への取組みを推し進めていきたいと考えています。また、その際に重要となるのがその方法です。

《再造林のポイント》

- 生産目的 ~ 伐採時の立木の用途(用材・燃料他)を明確にし、伐期も設定する。
- 適地適木 ~ スギ、ヒノキ、有用広葉樹の選定と植栽本数及びコンテナ苗・ポット苗等の選択をする。
- 獣害対策 ~ 効果のある防護ネットを確実に設置できる場所を選定する。

こうしたポイントに基づいて再造林を実施していくことで将来の地域の森林が形づくられていきます。まさにこれからが「重要な転換期」と言えます。今後、当組合としましても、再造林の際には、皆様に対し様々な選択肢を提供できればと思っています。

目指す森林づくり

人工林と天然林の面積のバランスがとれ、多くの樹種や林齢の異なる林分が織り混ざった「多様性のある森林」が目指すところです。又、そのことが「生物の多様性」且つ、「多様なビジネス」にも繋がっていきます。

当組合では、これから先も、こうした森林づくりへの取組みを通して、環境面、エネルギー面、災害防止面、そして雇用面等で地域に貢献していきたいと考えています。

25年の推移



コンテナ苗による植栽

現在、各地において木材バイオマス発電等、利用再生エネルギーの活用が進められています。そういった中、林業においても、山林の循環を行う上で重要な「植栽」のコストを削減するための研究や取組みが始まっています。

今回は、今後の活用が期待されている『コンテナ苗』について紹介します。コンテナ苗は、右写真の「マルチキャビティコンテナ」で育成される苗です。

根がむき出しの苗木(裸苗)と比べ、

- 植穴が小さく、植付作業を効率的におこなえる
- 時期を問わず一年中植栽ができる
- 植栽後の成長が良い
- 専用器具を使用するので植栽技術が容易である
- 普通苗に比べ、1日当たりの植栽本数が多い

以上のようなメリットがあり、今後の再造林の効率化や主伐までの育林のトータルコスト削減を目指します。

総務課係長 藤本直樹



スギのコンテナ苗と裸苗(右)



マルチキャビティコンテナ



スギ挿し木のコンテナ苗

平成28年度

造林補助事業

(委託・代理申請 共通)

- 全ての作業種において写真(着工前・作業中)が必要です。組合に事前にご連絡下さい。写真を撮らせて頂きます。
- 地目は、山林に限ります。
- 1ヶ所0.1ha(1反)以上の面積が必要です。
- 植付けは植栽本数 概ね1,000本/ha以上
- 枝打ちは、平均枝打ち幅1m以上が必要です。



「森林組合監査士」を平成28年1月に取得しました。

農林水産省関係の国家資格で、森林組合法に基づき各県森林組合連合会が実施する監査事業に従事できる資格です。私で当組合の監査士は3名になりました。



林産流通課長 柳田圭一

採択基準

林齢	作業種	植付	下刈	枝打	除伐間伐	森林作業道	備考
1年生		●*①	●			●	*① 地格えをする場合は作業前の写真が必要です
2年生~10年生			●*②	●		●	*② 6年生以上は雑草木が繁茂している場合に限る
11年生~90年生				●	●*③	●	*③ 伐採率20%以上または30%以上

利用間伐の場合【市場等の入荷伝票】【伐採木搬出の写真】の提出が必要になります。組合で撮らせて頂きます。

